

歴史を理解することで、平和を感じ考える

宇佐で学べる戦争の歴史

Point 1 宇佐海軍航空隊は日本有数の練習航空隊

宇佐海軍航空隊は、昭和14年(1939)10月1日、実戦機を用いた訓練を担当する練習航空隊として開隊した。訓練には、航空母艦で発着する艦上攻撃機(通称:艦攻)、艦上爆撃機(通称:艦爆)が使用され、戦地に向かう搭乗員のほとんどが宇佐で訓練を行ったことから、「艦攻・艦爆のメッカ」と呼ばれていた。

艦上攻撃機

3人(操縦員、偵察員、電信員)乗り
魚雷や爆弾を水平飛行で投下



航空隊正門と司令部庁舎

艦上爆撃機

2人(操縦員、偵察員)乗り
高度約3,000mから急降下して爆弾を落下



九九式艦上爆撃機

Point 2 真珠湾攻撃とのつながり

昭和16年(1941)10月からは、真珠湾攻撃に参加する航空母艦「翔鶴」「瑞鶴」の艦上攻撃機隊が宇佐で訓練を行っていた。真珠湾攻撃の第一弾を投下したといわれている高橋赫一少佐は、宇佐海軍航空隊の初代艦爆飛行隊長であった。

Point 3 宇佐からも出撃した特攻隊員

太平洋戦争末期、戦局の悪化に伴い、特別攻撃隊(特攻隊)が編成されるようになり、宇佐海軍航空隊も昭和20年(1945)2月に特攻訓練が命じられ、3月には実戦部隊となった。宇佐海軍航空隊では神風特別攻撃隊「八幡護皇隊」が編成され、4月2日以降、出撃基地がある鹿児島県へ移動し、最後の出撃命令を受け、沖縄方面への特攻作戦に出撃した。宇佐海軍航空隊からは、延べ9隊102機193名が出撃し、8隊81機154名が亡くなった。

Point 4 人間爆弾「桜花」と宇佐

「桜花」は、1.2トンの爆弾に木製の翼をつけた小さな機体で搭乗員もろとも体当たりする特攻兵器で、人間が爆弾の誘導装置となることから「人間爆弾」とも呼ばれた(昭和19年11月完成)。自力で離陸ができず、母機となる「一式陸上攻撃機」に吊り下げられて運ばれ、投下後の生還は不可能だった。この「桜花」を運用する航空特攻専門部隊が第721海軍航空隊(通称:神雷部隊)。昭和20年(1945)3月18日、宇佐基地の神雷部隊は最初の出撃命令を受けたが、離陸直前に米軍機による空襲を受けたため出撃は中止となった。その後、神雷部隊は鹿児島島の基地から出撃を続け、829名が犠牲となった。宇佐には多数の「桜花」が配備されたが、終戦まで宇佐からの「桜花」出撃はなかった。

Point 5 今に残る空襲の爪あと

昭和20年3月18日、宇佐は米軍艦載機による最初の空襲を受けた。同年4月21日には米軍の爆撃機「B29」による初空襲で、航空隊関係者だけでも300人以上、民間人を含めると500人近い犠牲者が出たといわれている。宇佐海軍航空隊は昭和20年5月に解散したが、宇佐への空襲は断続的に行われ、終戦までの間に計11回の空襲を受けた。



USAで学ぶ戦争と平和



軍事施設である航空隊の基地は、多くの空襲を受けました。

過去と未来をつなぐ

平和への願い

宇佐市 戦争遺構



戦争の歴史を現在に伝える資料や遺構から「戦争」を学び、そして「平和」を考えます。

「平和の大切さと命の尊さ」を感じ考える

宇佐市平和ミュージアム(仮称)資料館

平和学習の拠点となる宇佐市平和ミュージアム(仮称)資料館の建設を計画しています。資料館では、宇佐海軍航空隊を中心とした戦争の歴史をわかりやすく公開し、「平和の大切さと命の尊さ」について感じ考える機会の創出を図ります。



実際に宇佐の戦争遺構をめぐる 体験者の声

この学習で、「宇佐の空襲」に直に触れることができ、書籍や映像などで学習してきた思いや知識をさらに深めることができました。子どもたちは、この問題をより多くの方々に発信することを使命と感じ、今後も学習を深めたいと感じております。また自分の将来を見つめる機会となり、子どもたちの成長を感じております。



中学校教員 1学年担当



小学校教員 5学年担当

当時の資料に触れ、詳しい説明をいただいたことで、平和について考える機会と、教室とは違う貴重な学びを体験することができました。

宇佐の戦争遺構での体験を通して考える SDGs



宇佐市戦争遺構の見学を通して、戦争の歴史を学び、持続可能な平和な社会の実現について考えることができます。戦争遺構の保存、平和学習機会の提供、まちづくりなど、宇佐市の「持続可能な世界」の実現に向けた取組みを感じることで、SDGsに対する意識の向上につながります。



SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

【宇佐市へのアクセス】 バスを使用

- 福岡市街 <----- (約120分)九州道・大分道・東九州道 ----->
- 北九州市街 <----- (約75分)東九州道 ----->
- 別府市街 <----- (約35分)東九州道 ----->
- 大分市街 <----- (約50分)東九州道 ----->
- 大分空港 <----- (約60分)大分空港道路・東九州道 ----->



【お問い合わせ先】

宇佐市教育委員会 社会教育課
平和ミュージアム建設準備室

〒879-0492
大分県宇佐市大字上田1030番地の1
TEL.0978-27-8200(直通)

【大分県教育旅行のお問い合わせ先】

公益社団法人 ツーリズムおおいた

〒870-0029
大分県大分市高砂町2番50号 OASISひろは21 3F
開所時間(平日)9:00~17:45(土日祝を除く)
TEL.097-536-6250 / FAX.097-536-6251
MAIL.tourism@we-love-oita.or.jp https://oita-story.com



戦争の歴史を現在に伝える 宇佐市の戦争遺構

宇佐市には、宇佐海軍航空隊が存在したことから、戦争の歴史を現在に伝える戦争遺構が航空隊跡を中心に多く残っています。また、宇佐海軍航空隊に関連する資料も多く残っており、資料や映像の一部を宇佐市平和資料館にて展示、公開しています。

1 宇佐市平和資料館

大型バス駐車可

宇佐海軍航空隊の歴史や宇佐から出撃した特攻隊、宇佐への空襲などを紹介するための資料館です。館内では、特攻隊員の名前が残る資料や米軍がガンカメラで撮影した空襲の映像、映画「永遠の0」の撮影用に製作された零戦の原寸大模型などを展示、公開しています。



見学の様子

零式艦上戦闘機21型
(原寸大模型)



桜花(原寸大模型)

機銃弾がささった日課表



宇佐航空隊への空襲の様子(動画の一部)

ガンカメラ

米軍が空襲の戦果を確認するために使用していた小型のカメラ、軍用機の機関銃と連動して撮影できるようになっており、全国各地の空襲の様子が動画で記録されています。調査研究団体「豊の国宇佐市塾」が映像の分析を行っており、宇佐市では解析した映像を平和資料館等で公開しています。

開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日 火曜日(祝日の場合は、翌日)、年末年始(12月29日から1月3日まで)

所要時間 約60分

入館料 無料

所在地 大分県宇佐市大字閣440-5

TEL 0978-33-1338

宇佐市遺構マップ



● 掩体壕
● 戦争遺構

2 宇佐空の郷 (宇佐海軍航空隊正門跡)

大型バス駐車可

市内に残る戦争遺構めぐりの拠点施設として平成29年4月21日に開館しました。建物は宇佐海軍航空隊の司令部庁舎をモチーフとしており、敷地内には、正門門柱の復元モニュメントを設置しています。また、施設内には、この場所にあった宇佐海軍航空隊正門門柱の1基を实物展示しています。



開館時間 9時～17時
休館日 12月31日
※臨時休館の場合あり
所要時間 約15分
(館内のみ見学の場合)
入館料 無料
所在地 大分県宇佐市大字江須賀4035-2
TEL 0978-58-3453

3 城井一号掩体壕

大型バス駐車可



掩体壕は、飛行機を敵の攻撃から守るための施設です。城井一号掩体壕は、戦後50年にあたる1995年に平和のシンボルとして宇佐市の史跡に指定し、公園として整備しました。掩体壕内部には、国東沖で引き揚げられた零戦のエンジンを展示しています。

所在地 大分県宇佐市大字城井159

4 落下傘整備所

パラシュート(落下傘)を整備していたといわれている二階建てレンガ造りの建物です。外壁には機銃掃射の痕が無数に残っており、空襲の激しさを現代に伝えていきます。南北の壁には、○印が白い塗料で描かれています。同じ印が航空隊の司令部庁舎にも描かれていたことから、重要な施設であったことが推測されます。



所在地 大分県宇佐市大字江須賀4030-4

宇佐市のその他の戦争遺構はこちらからご覧いただけます。

宇佐市平和ミュージアム(仮称) ホームページ

<https://fieldmuseum-usa.jp/sensoukou>



テーマ 「平和の大切さと命の尊さについて考える」「我がまちも戦場であった歴史を学ぶ」

事前学習

テーマに対するきっかけとして宇佐海軍航空隊の歴史を学び、現地学習に対する視点をもつ(宇佐市への空襲の様子を記録したガンカメラ映像の視聴など)

現地学習(体験プログラム)

●戦争遺構群の見学
戦争遺構に残る機銃掃射の痕などを見学し、戦争の史実を身近に感じること、「平和の大切さと命の尊さ」について改めて考えることができる。

●平和資料館の見学
実物資料や原寸大模型等の見学により、平和学習に対する関心を高めるとともに、自分たちのまちや近隣地域への空襲の様子を記録したガンカメラ映像の視聴を通じて、我がまちも戦場であった戦争の歴史を学ぶきっかけを生み出す。

事後学習(グループワーク)

●「平和の大切さと命の尊さ」について、それぞれの考えを共有した上で、「自分たちができる平和への取り組み」についてグループ等で考えをまとめる。
●自分たちのまちの戦争の歴史について調べ、地域を愛するところにつなげる。

学習プログラム

モデルコース

150分コース

宇佐市平和資料館 60分 車7分 ▶ 城井一号掩体壕 15分 車0分 ▶ 滑走路跡 (車窓から) 車5分 ▶
宇佐空の郷 5分 徒歩3分 ▶ 耐弾式コンクリート造建物 10分 徒歩3分 ▶ 落下傘整備所 8分 徒歩4分 ▶
エンジン調整場 8分 徒歩6分 ▶ 宇佐空の郷 車6分 ▶ 爆弾池 10分 ▶ 次の目的地へ

90分コース

宇佐市平和資料館 45分 車7分 ▶ 城井一号掩体壕 15分 車0分 ▶ 滑走路跡 (車窓から) 車5分 ▶
宇佐空の郷 5分 徒歩3分 ▶ 落下傘整備所 or 耐弾式コンクリート造建物 7分 徒歩3分 ▶
宇佐空の郷 ▶ 次の目的地へ

受け入れ人数

最大受け入れ人数：200名
(平和資料館：80名、戦争遺構：120名)

ガイド

必要に応じて「戦争遺構めぐりガイド」が派遣可能。